

福岡県八女郡星野村方言のアスペクト

岡野 信子

I. はじめに

- (1) 調査対象地：福岡県の南東部に位置する星野村は、総面積81.28km²のうち、山林が68.22km²を占める山村である。人口4247人、世帯数1235（平成5年3月）のこの村のおもな産業は農業で、茶・庭園用花木がその主要産物である。玉露を製する地としても知られている。また製陶・民芸家具の製作もおこなわれており、以前は金山があった。その生活語はいわゆる筑後弁であるが、筑後西部域とは、たとえば敬語表現などにいくらかの差異がある。
- (2) 調査年月日時：1994年1月5日午後1時～1月6日午後2時30分
- (3) 話者：井上龍三 昭和3年11月19日生（65歳）老人ホーム園長
森松ミヨシ 昭和7年3月30日生（61歳） 農業
橋詰ヨミ子 昭和22年3月31日生（46歳）会社員
橋詰文恵 昭和48年9月25日生（20歳）学生
- (4) 調査者・調査場所：岡野信子、1月5日－旅館 1月6日－星寿園園長室
- (5) 調査方法・調査時の状況：1月5日の話者は女性3人である。この中の1人、橋詰文恵は梅光女学院大学日本文学科の学生で、これ以前に予備調査に応じてくれている。この日は話者かつ調査補助者として力を尽してくれた。そのおかげできわめて自然な雰囲気調査を進めることができた。1月6日の話者は井上龍三氏である。この日も橋詰文恵の同席によって不安のない調査を行なうことができた。
- (6) 表記方法
 - ①以下の記述で〈青〉とするのは橋詰文恵（20歳）の発言である。高年・中年の三者の発言は、三者の間に異なりがあるばあいだけにだけ注記を施す。
 - ②高・中年者と青年女子の発言には「～チ イキョル」と「～テ イキョル」、「～チョル」と「～トル」の差がある。両者の発言の差がこの部分だけの時は、所定の頁数に収めるために、老・中年者の発言だけを記す。上記の箇所を入れ替えたものが青年の発言であるをご理解いただきたい。
 - ③「記述のしかた」に定められたように、文末詞は必須のもの以外は捨象することに努めたが、ことばの自然さを保とうとして、やや残しすぎたかもしれない。
 - ④アスペクト部は分かち書きにしないのを原則とするが、読みやすさも考えて、「オツデ シタ」、「オモシレ コツジャッタ」などは分かち書きにしている。

II. 調査結果

1. (昔は) よく行ったものだね ①ヨー イキョッタ モンジャッタ / ②ヨー イキョ
ッタ
2. (あのころは) おもしろかったなあ ①オモシロカッタ / ②オモシレ コツジャッ

タ

3. (もうちょっとで) 落ちるところだった ①モチットデ オツツ トコジャッタ /
②モ一 チョットデ オツデ シター / ③アト チオイデ オツルゴタッタ (青)

4. (今にも) 落ちそうだよ ①オツデ ショル / ②オツート ショル (青) / オチヨ
ル (青)

5. (財布を) 落として ①オトシタゴタルケン / ②オテチ

※高年男性は「オテチ」(落として)も答えたが、これは質問文の直訳のようである。
「て」に続ける言いかたをほとんど聞かない。

6. 困っている ①コマッチョル トジャン / ②コマツトル トヤン (青)

※「述懐」のばあい、文末の「トジャン」「トヤン」(のだよ)は必須成分に近い。

7. (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ ①キューデ ショル / ②キエヨル / ③キエ
一カ ショル (青)

※「～デ ショル」は高・中年、「～カ ショル」はほぼ30歳以下の表現である。

8. (今、消えようとする) キエヨル

9. (完全に) 消えた(瞬間) ①キエツ シモタ / ②アッ キエタ (青)

10. (すでに) 消えていたよ キエチョッター

11. (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた キエチキタ

12. (何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ ①キエヨル ガー / ②キエチ イキヨル

13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ ①キエヨル / ②キエチ イキヨル

14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ ①キエツシモチヨル / ②キエツシモチョッ
タ

15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ ①ケシヨラス / ②ケシテ イキヨラス

※句末の「ス」は「尊敬」ではなく「ことばのやわらげ」だと(青)は説明する。

16. (もう全部) 消しているか ミンナ ケシチョル カ / ②ミンナ キヤシチョル
カ / ③ケシテシモトル カ (青)

17. (今にも桜が) 散りそうだよ ①チロデ ション ノヤー / ②チローカ ショル (青)

18. (ちらほらと) 散り始めた ①チッテ キヨル / ②チッテ キタ

19. (今現に) 散っている チリヨル

20. (桜の木がすっかり) 散っている ①チッテ シモチョッタ / △チッテ シモチョ
ル (「～チョッタ」を言うほうが多い。)

21. (地面一面に) 散っている チッチョル

22. (今にも降りそうだよ) ①フロデ ショル / ②フッテ クーデ ショル / ③フロ
カ ショル (青) / △④フロゴタル (「～デ ショル」「～カ ショル」は、「たし
かにその様子が見える」という心持ちのことばであり、「～ゴタル」は「～そうだよ」と
いう、ややゆるやかな言いかた(青))

23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ ①フロデ ショッタ / ②フロゴタツ
タ / ③フローカ ショッタ (青)
24. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ フリョッタ
25. (あの時はやがて夜が) 明けようとしていたよ ①アクデ ショッタ / ②アクーカ
ショッタ
26. (来年の今ごろは家を) 建てている最中 ①タテヨロケン / ②タテヨローケン (青)
27. (来年の今ごろは家をすでに) 建てている ①(家が) タッチョロケン / ②タテチ
オルケ (高年男子) / ③タテトローケ (青)
- ※高年者では「家が建っている」相当の表現が一般である。高年男性の「タテ Chol」
は問いの文言に合わせたのかもしれない。青年では「家を～」が普通のようなのである。
28. (あの家はよく) 磨いてある ①ミガイチャル
29. (隣の犬が) 鳴いている ①ナキョル / ②ホエヨル
30. (隣の子が) 泣いている △①ナキョラス (「ナキョル」とは言わない (青))
31. (こどもたちが) 喧嘩している ①シヨラス / ②シヨル (青)
32. (家に) いるかなあ ①オラスジャロカー / ②オラスヤロカー
33. (〇〇さん) いるか ①オンナル ノー / ②オッチェ ノー / ③オン ノー / ④オル
カーイ (男) / ⑤オル ネー (青)
34. (ああ) いるよ ①オル バーイ / ②オル ヨ (青)
35. (そういう人も) いるよ ①オラス バイ / ②オラッ サイ / ③オル クサイ (青)
36. (あなたは今何を) していたか ①ショッター
37. (私は今金魚を) 見ていたよ ①ミョッタッ タイ
38. (金魚が今にも) 死にそうだ ①シノデ ショル / ②シノーカ ショル (青) / ③
シノーゴタル
39. (やっぱり金魚は) 死んでいたよ ①シンデ シモチョッタ / ②シンドッタ (青)
40. 読み始めていた ①ヨミハジメタ トコジャッタ / ②ヨミョッタ (青)
41. 読み始めたところへ (～た) ①ヨミハジメタバッカリノトケ / ②ヨミハジメチヨ
ッタラ / ③ヨミョッタ トキニ
42. 着くと同時に～した ①ツイタツトイッショニ / ②ツイータバッカリノトケ
43. 着くと同時に～してくれ ①チータラスダ / ②チータツトイッショニ
44. 鳴りつづけている ①ナリツズキョル / ②エライ ナリョッタ バイ
45. (先生は今何を) しているか ①シヨナルトデス カ / ②ショッチェデス カ
46. 好きだ ①シー Chol / △②スイ Chol (青) (「スイトル」よりも「スイ Chol」
を言うことが多い)
- ※「先生が」ではなくて「先生を」の意識である。
47. 見られているのも ①ミラレヨルトモ シランナ / ②ミラレヨルトモ シランデ (

青)

※「シランナ」は「知らずに」相当である。

48. (今、運動会が) ある ①アリョル

49. (降らなくて) よかったよ ①ヨカッチョル

※「ヨカッチョル」は他者の心情を推察して言うことばである。自身のことを言う時は「ヨカッター」である。相手にむかって「アツタ ヨカッチョル バイ」のように言うこともあるが、本来的には第三者について言う表現である。

50. (先生がこっちへ来つつある ①キヨナル/②キヨッテ

※筑後域は、「キヨナサル」「キヨラッシャル」「キゴザル」「ミエヨル」「オイデヨル」など、敬語の多様な地域であるが、この星野村は敬語の簡素な地域である。

51. (犬がこっちへ) 来つつある ①キヨル

52. 似ている ①ニチョル/△②ニトル(青) (「ニチョル」と言うこともある。まれに「ニトー」も言う。)

53. (一週間も前から遊びに) 来ている ①キチヨラス/△キチョル (こう言うこともある。)

54. (昔から) 苦労していない ①クローシチヨラッサン/②クローシチヨッテジャー

55. (今はあまり) 苦労しないている ①ラク シヨラス/△②クロー シヨラッサン (しいて言えばこうなるが、普通は①のように言う)

56. ~は売っているが、~は売っていない ①タバコウ ウリヨラスパッテン イリョーヒンナ ウリヨラッサン/②タバコウ ウリヨルパッテンカ イリョーヒンワ ウリヨラン(青)/③タバコウ ウリヨルパッテンカ オカシワ ナカ モンノ

※高年者では③が日常の言いかたのようである。最初の発言は③であった。

57. (昔からタバコを) 売っている ①ウリヨラス/ウリヨル(青)

58. (今、大売出しで衣料品を) 売っている ①ウリヨラス/△ウリヨッテ(敬語である)/△ウリヨル(青) (「ウリヨー」と言うこともある)

59. (もう三回) 来ている ①キチョル

60. (いつも) 来ている ①イツデン キヨル トバイ/②トーシ キヨル

61. (昔はいつも) 来ていた ①キヨッタ

62. (前に一度) 行っている ①イタ コツノ アル/②イッタ コツガ アル(青)

※「イッチョル」も言えそうだが、たしかに「コツノ(ガ)アル」のほうが自然である。

59で「コツノ アル」が出なかったのは、「三回」という限定のためであろうか。

63. 先に行っておいてほしい ①イキョッテ クレン ↑

※「すぐ追いつくから」とあるから、「イキョッテ」「イキョッテ」である。「イチョテ」、「イットッテ」と言えば、「先に到着しておいてくれ」の意味になる。

64. 待っていないさい ①マツ^チョカ^ン フ/②マツ^トカ^ン 不(青)
 ※「マツ^トラン フ」を言わないかと問うてみたが、「ごくまれに言っていたかもしれない」、「八女市あたりで言うようだ」という答であった。なお、おだやかな命令には命令形を用いず、打消し問いかけ形式で言う。
65. (外に)待たせてあるよ ①マ^タセ^チョル タイ
66. 食べておいておくれ ①タ^ベチ^ョッテ クレン フ/②タ^ベチ^ョッテ
- ※64では「～ておる」相当の「チョル」「トル」は出ず、66では「～ておく」相当の「チョク」「トク」は出なかった。
67. (昔と)違っている ①チ^ゴチ^ョル/②チ^ゴトル(青)
68. (昔は今のと)違っていた ①チ^ゴチ^ョッタ/②チ^ゴト^ツタ(青)
69. (毎日梅干しを)食べている ①タ^ベヨル
- ※高年者には「タビョール」が出るかと思ったが聞けなかった。
70. (毎朝)している ①シ^ョル バイ
71. 気をつけていて(～した) ①キ^ョツ^ケチ^ョッタ^バッテン^カ/②キ^ョツ^ケチ^ョッタ^ツニ/③キ^ョツ^ケト^ツタ^バッテン(青)
- ※「テ」に続ける言いかたは出にくい。青年も、「テには続けにくい」と言う。
72. 行ったまま ①イ^タギリ/②イ^タナリ/③イ^タタ^ナリ(青)
73. ～しながら ①ハ^ナシ^ナガラ/②シ^ナガラ
- ※「ハナス ハナス」が出ないのをいぶかったが、『方言文法全国地図1』41「食いながら」の図上にも、筑後域は「ナガラ」だけであったので納得した。
74. ～の途中で～する ①イ^キガ^キニ/②イ^ッガ^ケ/③イ^キガ^ケニ(青)
75. ～の途中で～した ①イ^キヨ^ルト^チュー^デ/②イ^キョ^ツタ^リヤ/③イ^キョ^ツト^キ/④イ^キョ^ツタ^ラ(青)
76. ～の途中で止めて～した ①ヨ^ミョ^ツタ^バッテン/②ヨ^ミョ^ツタ^ツオ ヤメ^チ/△③ヨ^ミカ^ケチ^ョッテ(男) («これはかなり共通語的に思える」(青))
77. ～したばかりだ ①ヨ^ーダ^トコ/②ヨ^ーダ^バカリ(高男)/③ヨ^ンダ^トコ(青)
78. 無くなっている ①ノ^ーナ^ツチ^ョル/②ノ^ーナ^ツトル(青)
79. なくなるぞ ①ノ^ーナル バイ/②ノ^ーナ^ツテシ^マウ タイ
80. 掛けておいた帽子 ①カ^ケチ^ョッタ^ツ/②カ^ケト^ツタ ポ^ーシ(青)
- ※「カケチョッタツ」の「ツ」は「物」、すなわち体言代理語である。
81. 並んだ本 ①ナ^ロジ^ョル/②ナ^ラン^ジョル(青)/③ナ^ラン^ドル(青)
82. 並べた本 ①ナ^ラベ^チャ^ルター
- ※「～ター」は「～トワ」で、「ト」は体言代理語である。
83. ～しておこうか ①ヨ^ンジ^ョコ カ^ー/ヨ^ンジ^ョコ^ー カ(青)/ヨ^ンド^コー カ(青)

84. やってあるか ①シテシモータツ フー／②シテシモチヨル カ／③シテシモード
ル ㄱ (青)

85. 壊している ①クズシヨル バイ／②コワシヨル バイ (青)

86. 壊れているよ ①クズレチヨル／②コワレトル バイ (青)

87. 壊されている ①クズサレチヨル／②コワサレトル (青)

88. のけてある ①ノカシチャル／②ハズシチャル

89. 書き終わった ①カイテシモタ／②ケーチシモタ

90. 書いてしまいなさい ①ハヨ カイテシマワン フ／②ハヨ ケーチシマワン フ
／③カイテ シマワン ㄱ (青)

91. 書いてしまう ①ケーチシマウ タイ (男)／②カキヨル (青)

※高年女性、中年女性からはこれに相当する言いかたが出なかった。青年女性は、「これに相当する言いかたはない。高年男性の発言は共通語文を言いかえたものではないか」と説明した。

92. 書いてみた ①カイテミタ／②ケーチミタ

93. (孫は今)入院している ①ニューイン シチョッ トタイ／②ニューイン シト
ル (青)

94. (弟も今)入院しているそうだ ①ニューインシチョルゲナ タイ／②ニューイン
シトルゲナ タイ (青)

95. (きっと)よくなるよ ①サッチ ヨーナル ガー／②サッチデン ヨーナル ガ
(男)／③ヨーナッテクル バイ (青)

※高年者、中年者からは、「～テクル」、「～テイク」をつけた言いかたは聞けなかった。

96. (だんだん)よくなるよ ①チー下ズツ ヨーナル ガ／②ダーンダン ヨーナッ
テイク ガ (男) (見舞に来た人はこう言う)／③ダーンダン ヨーナッテクル ガ (男)
(看病している家族はこう言う)／④ヨーナッテクル バイ (青)

※高年男性は「行く」と「来る」との使いわけをこのように示した。なるほどとうなずけるが、「それを使うならば」と考えた結果の判断であって、この地の日常自然のものではないかもしれない。青年女子はしぜんに「～テクル」を答えた。

97. 歳とるとね ①トショルト／②トショット／③トシトッテ クルト (青)

98. なおらなくなるよ ①ヨーナランゴツ ナルモンデ／②ヨーナランゴツ ナッテク
ル モンデ

99. (1) (犬が) 怪我したので ①ケガシタケン

(2) (こどもが) 怪我したので ①ケガシタケン

(3) (お父さんが) 怪我したので ①ケガセラシタケン／②ケガサシタケン／③△ケ
ガシナッタケン (おもに女性が言う)

(4) (雨が) 降ってきたので ①フツテキタテン

100.(1) C

A 今にも降りそうな ①フローデ ショル／②フローカ ショル(青)／③フローゴタル

B 今、ぽつぽつ降りはじめた ①チートズツ フツテキタ

C すでに盛んに降り続けている ①エライ フリヨル バイ

(2) B

A 貯金が少しずつ増えようとしている ①チートズツ フユーデ ショル／②チートズツ フェヨル

B すでに現にどんどん増えている ①イミリヨル タイ／②フェヨル タイ

(3) C

A 増やそうと計画している段階 ①フヤソーデチ オモヨル／②フヤソーカ ショル(青)／③タムーデ オモヨル

B 増やそうとして少し貯金をし始めた ①イミラカソーデチ チョキンシハジメタ／②チートズツ タメヨル

※①は共通語文にひかれた言いかたである。②のほうが自然である。

C すでに現にかなり増やしている最中 ①イマ タメヨル モンデ／②デーブン タマリヨル サイチュー タイ

III. 総括(まとめ)

1. 共通語と比較しての当該方言アスペクトの特色

- (1) 共通語のアスペクトでは「イル」がよく働いているが、星野村方言のアスペクトでは「オル」がよく働く。
- (2) 共通語アスペクトでは、進行態・存続態をともに「～テイル」で言うが、星野村方言アスペクトでは、進行態は「～ヨル」(～おる)、存続態は「～チョル」「～トル」(ておる)で言う。
- (3) また以下にふれるように、「アル」もアスペクト形成に働いている。

2. 星野村方言のアスペクトの考察

ここでは主として星野村方言のアスペクトについて述べるが、関連してその周辺方言のアスペクトにふれることもある。

(1) 進行の言いかた

星野村方言では、進行態は「～ヨル」である。ところで福岡県域には、進行態を「～ヨル」とも「～チョル」又は「～トル」とも言う所がある。

九州方言学会編『九州方言の基礎的研究改訂版』(初版 昭和44年5月、改訂版平成3年11月)の65「今、雨が降っている」を見ると、福岡県下の調査地点21地点中、5地点で、老年者・少年者がともに「～ヨル」と「～トル」又は「～チョル」との

併用を答えている。その5地点は、筑後域の三井郡北野町・筑前域の福岡市金武・粕屋郡篠栗町・宗像郡津屋崎町・遠賀郡遠賀町である。この調査は昭和39年度、40年度におこなわれている。

今回私が女子大二年生に聞いたところでは、項目19「(今現に)散っている」で、福岡市・直方市・田川市の学生が「～ヨル」系と「～トル」系の併用を答えた。また項目1「(昔は)よく行ったものだね」で「ヨー イキヨッタ」と「ヨー イットッタ」の併用を答えたのは、春日市・福岡市・直方市の学生である。

以上のような状況から、筑後域では「～ヨル」の単用がほぼ一般的であると言える。

(2) 将然態の言いかたの年層差

星野村方言では、将然態は高年者で「～うデ ショル」、青年者で「～うカ ショル」である。青年者はまれに「～うト ショル」も言う。このほかに、ときに「～うゴタル」も答えられたが、青年話者は「～うゴタル」は「～うカ ショル」よりはゆるやかである。「今、まさに……」ならば「～うカ ショル」だと解説した。同じく筑後域の山門郡大和町の女子大二年生も、項目3・4・7・8・17・22・25・38で、「～うカ ショル」を答え、7では太宰府市の女子大二年生も「キューカ ショッ タイ」であった。

ところで昭和39年度、40年度におこなった九州方言学会の調査では、50「今まに行こうとしている」(将然態)に、筑後域では「フローデ ショル」系と「フローゴタル」系の事象が答えられている。「フローカ ショル」は筑後域ばかりでなく、九州全域にも見えない。(この時の全項目を地図化したものは、調査者に配布されたが、『九州方言の基礎的研究』にはその一部しか出ていない。この「将然態」の地図も出ていない)。

また国立国語研究所の、昭和52年度の調査結果の報告書『表現法の全国的調査研究』(1979年3月)の32「桜が散りそうだ」では、柳川市で「チロデ ショル」が答えられている。

このように「～うカ ショル」はこれまでの調査報告書には見えない。星野村の話者たちからは「30代以下の人たちが言う」という教示もあった。新しい表現法であろう。今回、私の調査に応じてくれた女子学生の中には、熊本県、長崎県、佐賀県の学生もそれぞれ一、二名ずついたが、その人たちからは「～うカ ショル」は聞けなかった。筑後域の若い人々の間に生まれた表現法であろうか。

(3) 「アリヨル」「アリヨッタ」

星野村方言では、48「運動会が アリヨル」(高)、「～が アリヨル」(青)に見えているように、「ヨル」は「アル」にも続く。また「ソゲナ コツモ アリヨッタ」のように、「アリヨッタ」(老)、「アリヨッタ」(青)の回想表現もある。ただし、形容詞に「ヨル」「ヨッタ」を続ける言いかたはない。

さきにあげた『九州方言の基礎的研究 改訂版』の調査項目66「今、映画が催されて

る」でも、調査全地点で「アリヨル」系事象が答えられている。そして老年者では宗像郡津屋崎町で「アリヨル」と「アットル」の併用、鞍手郡鞍手町で「アリヨル」と「アッチョル」の併用が答えられている。一方、少年者では三井郡北野町で「アリヨル」と「アッチョル」の併用が答えられている。

(4) 「～チョル」「～トル」のさまざまな表現

① 動詞+チョル・トル

「(花が)サイチョル」、「アスケ(あそこに)タッチョル」、「ヨーニチョル」(よく似ている)などは状態表現である。その動詞が心情性のものであれば、たとえば「コマッチョルトジャン」(私は困っているんだよ)のように述懐の表現となる。また「サンカイモキチョルトバイ」(私はここには三回も来てるんだよ)は経験の回想である。他者のことについて「オーカタキノーイッチョルヨ」(たぶん昨日行ってるよ、私はそう思うよ)と言えば、これは推測断定を言う表現である。このように「～チョル」「～トル」の表現するところは多様である。

② アッチョル

存在動詞「アル」に「～ておる」を添えた「ソゲンコツモアッチョル」(そんなこともあったよ)は回想表現であって、自身のことについて言う時は述懐の色が濃い。また「ムカシャハチケンジャッチョル」(昔は戸数が八軒だったよ)の「～ジャッチョル」は「～であっちょる」であろう。ここにも「アッチョル」がある。

このように「アッチョル」は言うが「オッチョル」は言わない。福岡県域で「オッチョル」や「オットル」を聞くことはまれであるが、私は筑豊域の飯塚市で「ニジュークグライマデウチーオットリマス」(29歳ぐらいまで生家にいました)と、「オットリマス」を聞いたことがある。

③ 形容詞+チョル・トル

「チガワントゼンナカッチョルバイ」(一人で留守番をさせられて、あの子はさびしかったにちがいないと思うよ)のように、「チョル」「トル」は形容詞にも続く。これは他者のことを推測して、確信的に言う表現である。ときに相手に「アンタイカンデヨカッチョルヨ」(あなた行かなくて幸運だったよ。行ってたら大変だった)のように言うこともある。

星野村ではこの表現はさほど優勢ではなさそうであった。中・高年者よりは青年者のほうがこれを口にすることが多かった。また浮羽郡・太宰府市・嘉穂郡の学生からも「サビシカットル」を聞いた。

④ スイチョル

「スイチョル」「スイトル」は、形容動詞「好きだ」相当である。動詞「スク」の連用形に「チョル」「トル」が続いたのである。「スク」は終止形で用いられることはまずないが、打消の「スカン」に動詞性を見せている。

(5) ～テアル・～アル

「ミガイチャル」(磨いてある)、「ナラベチャルター」(並べてあるのは)、「ノカシチャル」(のけてある)などは処置を言う表現である。

一方、「ユキガフルゴツモアル」(雪が降るようだ)、「ユキンゴタル」(まるで雪のようだ)、「イコーゴタッ」(行きたい)のように、「ゴトアル」がアスペクト表現に働いている。

また星野村では聞けなかったが、八女市などでは「キテアル」(来ていらっしゃる)、「ヤメテアル」(退職しておられる)のように言う。「～テアル」は「～ Chol」「～トル」の敬語である。この言いかたは筑前域にことに栄えており、筑後域も言う所が多い。「～チャル」となることも多い。

アスペクトの周辺のことであるが、筑前・筑後域では「アル」を断定辞としても用いる。たとえば「マジメニアル」(まじめだ)のような表現を星野村でも聞く。また「イマナンジアン^ノ」(今、何時ですか)、「ゴジアルヨ」(5時だよ)のようにも言う。この表現は星野村もふくめて筑後南部域で言う。八女市などでは「イトーアンナサルデッショ^ノ」(痛くていらしゃいますでしょ)なども聞く。

「アル」はまた「コマッコ^ノ下ジャン」(困っているんだよ)のように、文末詞の中にも認められる。「ジャン」は「じゃある」であろう。若い人々は「ヤン」と言う。この「ジャン」「ヤン」は「～ではないか」相当のものではない。

(6) 処置・準備を言う「チョク」「トク」と「Chol」「トル」

64「待っていないさい」は「マッコ^ノカ^ノ」^ノ「マッコ^ノカ^ノ」^ネである。命令形で言うことはまれであるが、言うとすれば「マッコ^ノケ」^ノ「マッコ^ノケ」^ネである。終止形は「マッコ^ノク」^ノ「マッコ^ノク」^ネである。これらには「オク」が働いている。一方、66「食べておいてくれ」は「タベッコ^ノッテ」^ノ「タベッコ^ノッテ」^ネであり、80「掛けておいた帽子」は「カケッコ^ノッタ^ノ」^ノ「カケッコ^ノッタ^ノ」^ネで、ここには「オル」が働いている。「テ」「タ」に続ける時は「～ッタ」を言い、「～イタ」はあまり言わないことは、福岡県全域の状況でもある。たしかめ得ていないが、未然形、終止形、命令形にも「オル」を言う表現、「マッコ^ノラン^ノ」^ノ「マッコ^ノル」^ノ「マッコ^ノレ」^ノがあったのではあるまいか。

(補) 73「話をしながら走っている」

「～ながら」相当の「ハナス ハナス」などが出なかったことについて、『方言文法全国地図』にも筑後域にそれが見えないことをあげた。今、『九州方言の基礎的研究』を見ると、52「歩きながら話す」に、星野村で「ユクユク」「イキイキ」「イッカタデ」が答えられている。また国立国語研究所の『表現法の全国的調査研究』54「食べながら歩く」では、柳川市で「タベルタベル」と「タベナガラ」が答えられている。

(おかののぶこ 梅光女学院大学客員)